

「COPD」ってどんな病気ですか？

21世紀に増える肺の生活習慣病。それがCOPDです。

高血圧や糖尿病などの生活習慣病のことは良く知られるようになり、血圧や血液検査の結果を気にする人も多くなりました。

しかし、まだあまり知られていない、肺の生活習慣病があります。それが「COPD Chronic Obstructive Pulmonary Disease(慢性閉塞性肺疾患)」です。

COPDは、気管支の炎症や肺の弾性の低下によって空気の流れが慢性的に悪くなること(気流閉塞)が特徴です。従来、慢性気管支炎や肺気腫として診断されていましたが、最近はこちらを合わせてCOPDと呼ぶようになっています。初期の症状が咳や痰、息切れといったごくありふれたものであり、本人も気づかないくらいゆっくりと進行していくため、重症になるまで受診しないことが大きな問題です。

原因は主にタバコ。潜在患者は推定530万人以上。

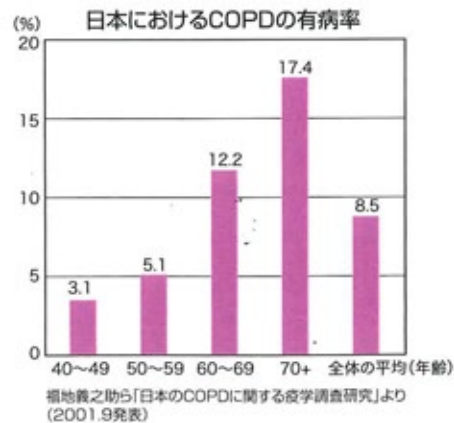
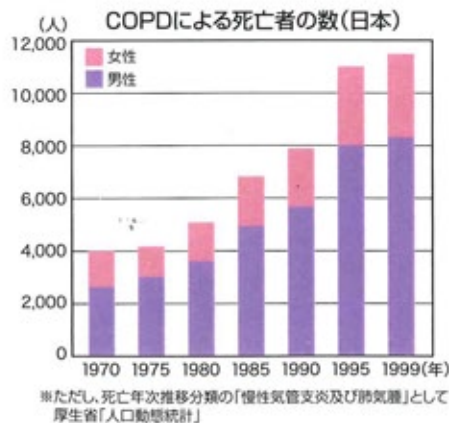
COPDの原因のほとんどはタバコです。タバコを吸い続けるうちに、加齢とともに進行する呼吸機能の低下がだんだん激しくなり、咳や痰、呼吸困難に悩まされ、やがては呼吸不全や心不全による死を迎えます。日本では、特に高齢化が進み、喫煙率が高いことから、患者数が激増することが危惧されています。

今まで、欧米に比べて日本にはCOPD患者さんは少ないとされてきましたが、大規模な疫学調査の結果、530万人以上の患者さんがいると推定されました。40歳以上の有病率は8.5%と大変高いこともわかりました。しかし、多くの人が風邪やタバコの吸いすぎなどと思い込み、自分がCOPDとは気づいていません。

1990年と2020年の世界の死亡原因ランキング

死亡原因	1990年のランキング	2020年の予想ランキング	順位変化
虚血性心疾患	1	1	0
脳血管障害	2	2	0
下部呼吸器感染症	3	4	↓1
下痢性疾患	4	11	↓7
分娩に伴う疾患	5	16	↓11
慢性閉塞性肺疾患(COPD)	6	3	↑3
結核	7	7	0
麻疹	8	27	↓19
交通事故	9	6	↑3
呼吸器癌	10	5	↑5

世界銀行の予測による(1994)



不二越病院健診センター
新家 悦朗